

令和2年 第2回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和2年2月13日(木)
- 2 招集場所 大河原町役場 委員会室
- 3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、小山明子委員、鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者
教育総務課長 佐藤勝弘、生涯学習課長 八島良隆、学校教育専門監 池田尚人
- 5 開 会 午後2時
- 6 令和2年第1回教育委員会定例会議事録の承認について
鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 承認する。
一盃森委員、小山委員 署名。
- 7 教育長報告
 - (1) 一般事務報告について
なし
 - (2) 専決事務報告
なし
- 8 議 事
人事案件 大河原町教育委員会会議規則第5条第1項により公開しないこととする
非公開
議案第1号 県費負担教職員の異動等の内申について
鈴木教育長 (委員全員に諮って) 承認する。
議案第2号 令和2年度大河原町教育重点施策について
鈴木教育長 (委員全員に諮って) 承認する。

八島課長	はたらく館の展示について消防法の関係で展示ができない。
丹羽委員	消防法に従わなくてはいけないのであれば、仕方ないのでは。
八島課長	季節によって、佐藤佐太郎、尾形亀之助、村井幸三、通年の昆虫展、文化協会の作品展等を考えていた。
舟山委員	展示物は、人が集まるようなところではないといけない。公民館のロビー等を利用すべき。
一盃森委員	町の文人を学ぶ環境があるといい。環境が整うまで、無駄にしないように。期間限定の企画展でもよいのでは。
小山委員	算数チャレンジ。他教科への発展とは。
池田専門監	社会とか、理科の分野も考えている。
一盃森委員	子供の学びの保証について、学ぶことが学校教育だけではないといという方向性が必要なのではないか。自由研究のナンバーワン等を考えると総合的な子供の学びができるのではないか。
丹羽委員	学校登校できるようになるのが一番だが、タブレット等を利用する必要があると感じる。ぬるま湯につかっていると、それ以上のことをしなくなる。楽しなくなる。
鈴木教育長	不登校の子がタブレットを利用して家庭で学習しているが、持続しないケースがある。
舟山委員	個々の育て方に目がいつているが、団体生活で学ぶことが、いっぱいあると思う。スポーツ少年団の支援を生涯学習課でももう少し工夫してもらえないか。困難に立ち向かう子供の心を育てないとだめなのではないか。心が育っていないのではないか。
一盃森委員	生きていく力をつけるとは。個性化。
教育長	スポ少、子供会、親子会の加入率が低い。親の意識が変化している。学校と地域がつながって盛り上げていくにはどうしたらよいか。集団の中で個を高めるには、コミュニティ・スクール構想が必要になる。

9 その他

(1)教育長報告

学年末にあたって

子供たちの悩みについて月1回のアンケート調査だけで終わるのではなく、子供の話を聞くなどして向き合う時間を確保してほしい。子供たちに1年間の努力や成果を自覚させてほしい。先生方の学校経営の参画を褒めてほしい。

大河原町標準学力調査結果について

平均正答率が全国平均を超える学年が少し減っている。大河原町の学力は学校に入学後伸びてきていたがそうではなくなっている。達成率が減っていて、来年度の学力テスト

トに危機感をもっている。

中学2年生は、正答率はよくないが達成率がよくなっている。伸びる要素がある。小学校6年の算数はすべての学級が伸びている。中学校にいったらもっと伸びるにはどうしたらよいかを考えていかななくてはならない。

残期間の過ごし方について

キャリア教育の視点やマネジメントの視点を入れて、年間計画を作成する。ALTを増員、英語専科教員もいるので小学校外国語は、充実するのではないか。学習指導要領の改訂により評価の観点が変わっている。

不登校の増加率が多い。なぜ増えているのか不明である。不安とか、無気力、復帰率も高いので、好事例を集めて校長会で示していこうと考えている。

新規事業について

大河原南小学校に課題解決のための町採用教員を1名配置する。部活動指導員を各中学校に1名ずつ配置する。ギガスクールではタブレットひとり1台を目指す。

来年度、地域学校協働本部事業を立ち上げたあとに、学校運営協議会つまりコミュニティ・スクールにつなげる。学校をどう支援できるか、子供たちが地域にもどることによって活性化させられるのではないか。学校を支援する既存組織があるので、令和3年度は南小学校で最初に立ち上げる。

コミュニティ・スクールの学校管理規則や運営規則も新規制定する。読み聞かせや、登下校の見守り等今やっていることをまとめて整理していく。運営委員会も設置し方向性を決めていく。校長の学校の基本方針を承認したり、意見を述べたりできる。地区行事への参加率等の増加につなげたい。

公立高校の入試出願希望調査について

刈田柴田地区の高校は、競争倍率が1倍もない高校が多い。子供たちが勉強しなくても入れる。中学校の学力が伸びない、学力差につながっているのではないか。仙台市は勉強しないと入れない。仙台市の中学校は政令指定都市のなかで1位。

立志式について

仙台放送にも放映された。保護者の言葉もよかった。

避難所設営訓練について

大中で行われた、避難所の設営訓練も素晴らしかった。テレビ放映もされた。子供たちの活躍が未来の大河原につながるのでは。

丹羽委員 | 1年生のクラスで教室に残って、先生が教えてくれていた。大変ありがたい。

舟山委員 | 今後、柴田農林高校、大河原商業高校の学科の変遷があるのではないか。

一盃森委員 | 私学助成金になって、私立に専願に30人以上いる。私立は、バカロレアなど力を入れている。

池田専門監	公立より私立の流れができています。
小山委員	私立は、個を尊重してくれる。 こころのケアハウスだよりで、好事例を載せて欲しい。ケースワーカーに相談するには、ちょっと敷居が高い人もいますので。保護者の間に浸透してほしい。
丹羽委員	親への対応の仕方があれば。安心するようなアドバイスが書いてある1枚もの。
鈴木教育長	心のケアハウスのリーフレットを作りたい。

(2) 課長報告

定例教育委員会開催計画(案)について

- ・学校における働き方改革 先生方の在校時間について
- ・町内の標準学力調査12月結果について
- ・大河原中学校の防災ボランティアの活動について

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 次回は令和2年3月24日(火)午後2時から定例会を開催する。

11 閉会宣言 午後4時30分

令和2年3月24日

署名委員

署名委員